

インテリア

1. 木質度合いを高め、温かく

■ 木の格子梁

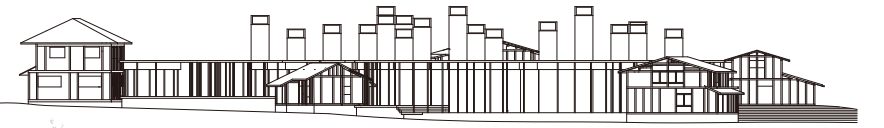
木の格子梁を用いることで、構造体そのものが空間の表情となり、木質の存在感が、空間全体に、滲み出る。

現代建築部分は、鉄骨造で、床や天井はコンクリートになっていて、合理的である一方、冷たく無機質な印象を与えがちであるため、木の格子梁を組み込む。それにより、視覚的・身体的スケールが人の感覚に近づき、空間に包容感とやわらかさが生まれる。

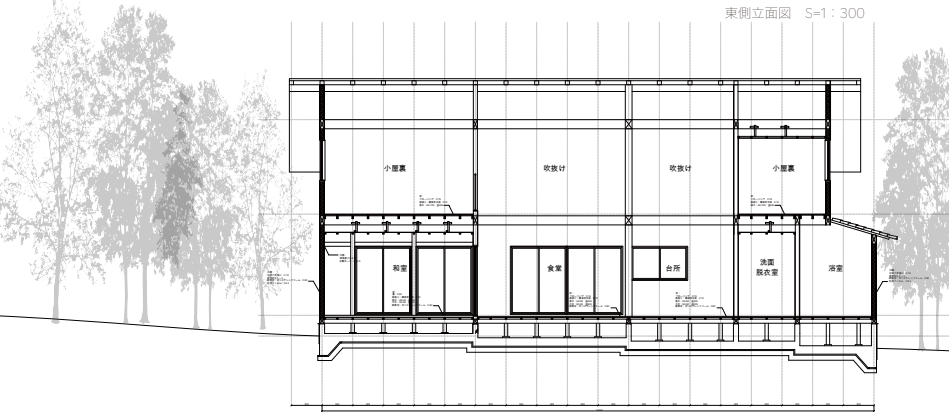
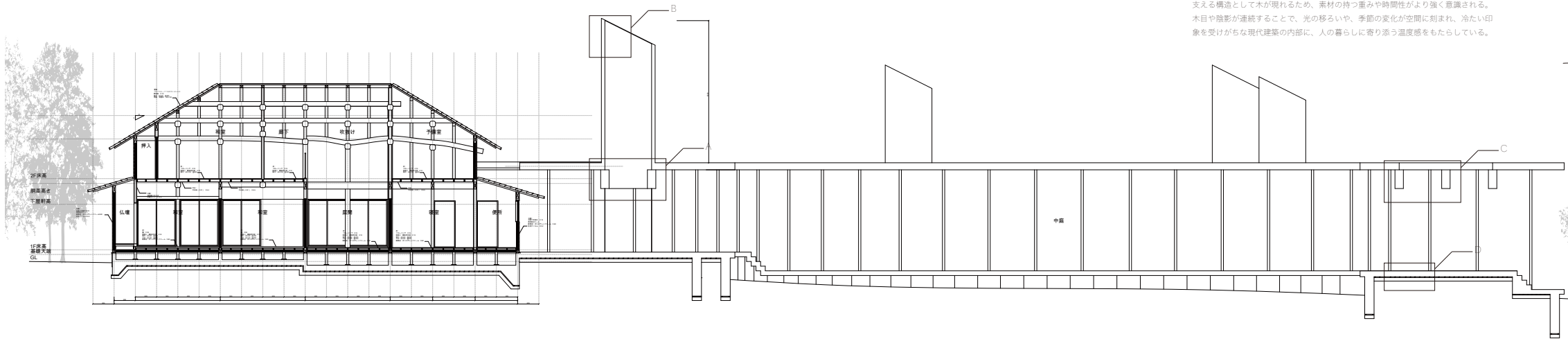
また、格子状に組まれた梁は、単なる仕上げとしての「木」ではなく、力を受け止め、変える構造として木が現れるため、素材の持つ重みや時間性がより強く意識される。木目や陰影が連続することで、光の移るいや、季節の変化が空間に刻まれ、冷たい印象を受けがちな現代建築の内部に、人の暮らしに寄り添う温度感をもたらしている。



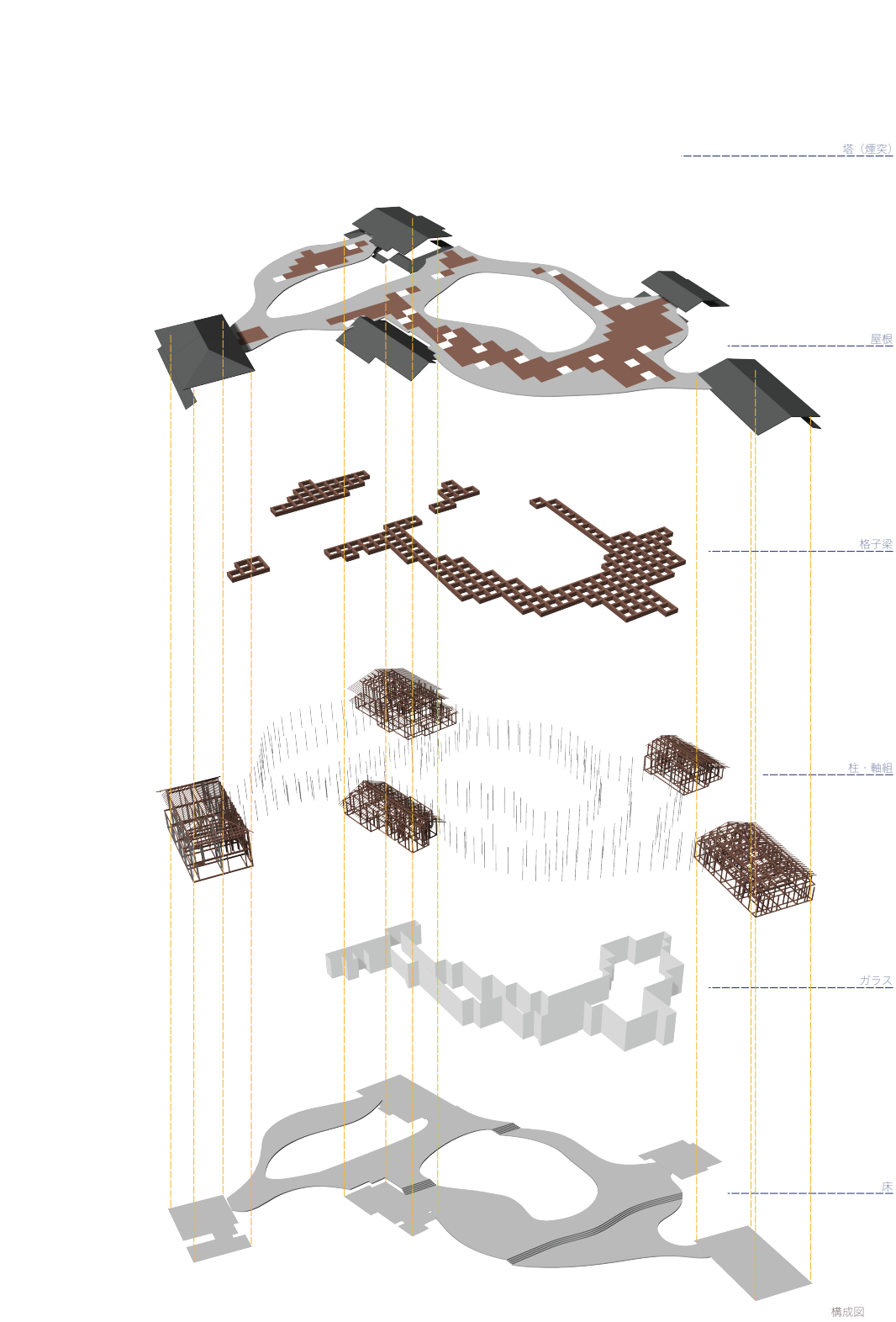
南側立面図 S=1:300



東側立面図 S=1:300



断面図 S=1:80



構成図